

平成 16 年 2 月 21 日

## 財団法人 日本セーリング連盟

### 平成 16 年度事業計画

#### 運営方針

1. 平成 16 年度の実業計画の重点項目
  - (1) アテネオリンピックへ選手を派遣するとともに、北京オリンピックを目指す選手強化政策を再構築する。
  - (2) 統合についての基幹業務、組織構造について最終結論と合意を形成する。
  - (3) セーリングに関する公益法人としての日本セーリング連盟の位置づけ（ナショナルオーソリティー）と連盟に加盟する団体との責任義務関係、および連盟と会員（メンバー）との関係を明確にするるとともに、合意を形成する。
2. 海洋スポーツの発展の基盤を設定し、どのように構築するか、海があればマリンスポーツ・マリンレジャーを楽しめるような地球環境作りの土台を国、他の海洋関係団体と連携し将来を構想する。
3. 世界のセーリング関係情報、レースや普及活動の情報を分析し、セーリングスポーツ環境の発展による恩恵をあらゆる海洋関係産業ならびに海を愛する人々が享受できるような協力関係、広報を進める。
4. 財団法人として、上記基盤を確立するために財務基盤を確立する。

#### 事業計画ならびに重点課題

1. 時限的な措置として運用してきた理事選出の方法を最終的に見直し、成文化する。
2. 財務構造の分析を詳細に行い、負担金、会費、諸資格、登録制度の料金、委託費用等についての再検討を行う。
3. アテネオリンピックを最大限支援するとともに、次期を目指し競技力向上委員会とオリンピック特別委員会が総合的な政策を展開する。
4. 時限的に設置された外洋特別委員会を外洋統括委員会とする。

#### 総務事業（本社機構）

##### 総務委員会（委員長：中山明、副：平賀威、鈴木修）

1. 未処理諸規程の整備
  - (1) H14 年度の時限立法となっている理事選出方法について、連続就任任期制限や年齢制限を含めて審議し、最終規則として成文化する。
  - (2) 評議員の選出方法について 15 年度理事会で決定された選出方法を規則として成文化する。

(3) 諸規程の整備統合を進める。

(レース委員会、ルール委員会等が別に定めた規則、規程の統合、広告規程の事務上の整備)

2. 加盟団体、特別加盟団体の義務と権利内容の明確化(団体負担金、補助金などの公平性や休眠、退会、罰則について)及び加盟団体事務処理の再検討を行う。(連盟の加盟団体委託業務については契約書を作成、会費徴収期限の徹底策を検討)会員管理方法については、IT検討委員会と協調して成案に努め、決定後の運用方法を成文化する。
3. 艇種別クラス協会のセール番号、艇登録、廃棄処理等、MNAとしての基本的管理内容の再検討を行う。
4. 会員及び団体の権利と義務について  
RRS 使用の権利、レース主催の権利義務、ならびに加盟団体等の下に所属するフリート、クラブ、学校、企業の団体等の権利義務について明確にする。
5. 保険制度の広報と加入の促進  
メンバーズ保険、セーラーズ保険、総合賠償責任保険、主催者賠償責任保険の現契約内容が他の保険システムと比べて有利か否か検証し、併せて現行システムの改善普及も検討する。
6. 事務処理のシステム化を促進  
事務局内の事務処理、及び各委員会、各種団体との関連事務処理、電子システムによる合理化、電子メールアドレス等の整備を推進する。
7. 表彰小委員会の活動  
表彰規程に従い各種表彰対象者の推薦を行う。  
外部団体より表彰された会員の表彰記録を事務局と共に整備し、セーリング活動を通じた社会的貢献の成果を PR し普及につなげる。(小委員長：栗原博、副：稲葉文則)

#### 会計委員会 (委員長：鈴木保夫、副：栗原博)

1. 健全な財務基盤構築のため、団体負担金、会費の値上げを含めた改善案の調査研究を行う。
2. 予算執行の適正な管理を行う。

#### 国際委員会 (委員長：戸張房子、副：富田稔、鈴木明善)

1. ISAF カウンシルおよび委員会への委員を派遣する。  
ISAF ミッドイヤーミーティング  
2004. 6. 2~6 アメリカ・サンディエゴ  
ISAF 年次総会  
2004.11. 5~14 スウェーデン・コペンハーゲン
2. アジアセーリング連盟会議への JSAF 役員を派遣する。

- 3 . 国際的な情報収集を行い、その情報の迅速な提供を行う。
- 4 . 日本から海外への情報発信を行う。
- 5 . 競技力向上委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現のための国際情報収集・提供を行う。
- 6 . 海外 MNA との友好関係を築き、交流を促進する。
- 7 . レディース委員会と協力し、日本およびアジア女子セーリング界発展のための情報を提供する。また ISAF ウィメンズ・セーリング委員会が第 1 回から関与している世界女性スポーツ会議への JSAF 女性委員派遣に援助する。
- 8 . 2004 年 11 月に改選される ISAF 委員推薦について検討する。

#### **広報委員会 （委員長：大山俊哉、副：浪川宏）**

- 1 . 機関誌「J-Sailing」を年 8 回以上発行する。  
内容については、競技報告及びアテネオリンピック、連盟の公益活動、国際情報、対省庁活動、連盟の施策などに関する情報を重視し、連盟会員外の一般セーラーも関心を持つ、セーリング情報の提供を通して、会員の増強に貢献する。
- 2 . 機関紙「J-Sailing」の配布を海の関係団体、例えばマリナービーチ協会に加盟するすべてのマリナーに何部か配布する。  
また、会員増強目的として、連盟会員外の人たちに配布を受けられるよう有料購読システムを開発する。
- 3 . Website を通じての情報開示を強力に推進する。  
理事会、評議員会、専門委員会を含む会議議事録（ただし人事に関する記録を除く）  
連盟役員、委員会名簿（個人の住所、連絡先を除く）  
連盟寄付行為、運営規則、諸規程など、さらに ISAF 関係諸規定など関連規則各委員会事業計画等の情報開示  
連盟会員、非会員を問わず、意見聴取の投稿欄を新設し連盟から丹念に答えること
- 4 . アテネオリンピックに関する広報活動に重点をおく。
- 5 . 報道機関に対するメディア全般にわたる広報などは、会長直接報道補佐官との連携とする。
- 6 . 月刊誌である舵誌と提携し、「日本セーリング連盟ホットニュース」のような数ページを頂き、時間的即応性の高い記事については、毎月の掲載を確保する。

#### **事業開発委員会 （委員長：平賀威、副：桑原啓三）**

- 1 . 委託販売制度の確立  
各加盟団体、特別加盟団体、各水域ヨットクラブなど  
業者（アリカ、ノースセールなど）
- 2 . 直売

さいたま国体会場、東京ボートショー会場、加盟団体主催レース表彰式・パーティ会場、加盟団体イベント会場、葉山ニッポンカップ、ジャパンカップ、J S A F 新年会、関東ヨットマンズクラブパーティ会場

3 . J S A F ロゴ入り商品の開発

ジャンパー、超軽量防水ジャンパーとパンツ、トレーナー、ポロシャツ、T - シャツ、キャップ、タオル、バンダナ、アクセサリー、記念品、賞品

4 . ロイヤリティビジネス ( J S A F ロゴマークの使用権 ) の検討

5 . J セーリングとのジョイントによるグッズの通信販売

6 . イベントの開催 ( 企画、運営について検討する )

7 . 2 0 0 5 年版カレンダーの製作 ( 船社とのジョイント )

8 . 引き続き在庫の整理を図る

エンサイン ( 大、小 )、クラブバージ、ワッペン、ネクタイ、ミニポーチ

**競技事業 ( ルーチン業務 )**

**ルール委員会 ( 委員長 : 川北達也、副 : 大村雅一 )**

セーリング競技規則 ( RRS ) についての解釈、判断の標準化を行い、全国への普及・浸透を図る。

1 . 実施事業

( 1 ) 国内におけるルールの管理および改定

ア . RRS 及び ISAF 規定の改定に関する補遺版の公示 ( 英文の日本語訳 ) を行う。

イ . ISAF ルールに関連する JSAF 規程を改定公示する。

( 2 ) 選手、指導者に向けてのルールの普及と解釈の浸透をはかる。

ア . ルール講習会用教材、ツール等の展開

イ . RRS 判り易い表現の検討を行う。

ウ . 国内主要大会、講習会等へのジャッジ・講師等の派遣を行う。

( 3 ) 国内を中心にアジアのジャッジ・アンパイア ( IJ/IU 含む ) の育成およびレベルアップをはかる。

ア . ルール関連マニュアルの作成し発行する。

イ . ジャッジ・アンパイア資格要件を見直し、資格認定を行う。

2 . 1 6 年度計画事業

( 1 ) 国内におけるルールの管理および改定

ア . ルールブック ( 2005-2008 ) 発行する。

イ . ルール関連文書 ( マニュアル / CaseBook / Call Book ) を発行する。

( 2 ) 選手、指導者に向けてのルールの普及、解釈の浸透をはかる。

ア . JSAF-Web へのルール情報の公開を行う。

イ . ルール委員会史を発行する。

(3) 国内を中心にアジアのジャッジ・アンパイア (IJ/IU 含む) の育成およびレベルアップをはかる。

ア．ナショナルアンパイア認定講習会を行う。

イ．ナショナルA級ジャッジ認定講習会、更新講習会を行う。

ウ．ナショナルB級ジャッジ認定講習会用資料、試験作成を行う。

エ．国内IU・IJ育成の支援と、アジア地区ジャッジ・アンパイア養成の支援を行う。

オ．IU・IJの推薦を行う。

カ．ナショナルジャッジ、ナショナルアンパイアの認定を行う。

キ．ルール委員会<5月30日、12月初旬、3月下旬>を行う。

#### **レース委員会 (委員長：名方俊介、副：市原恭夫、大原博実)**

- 1．クラブ・レースオフィサー認定講習会を実施する。
- 2．エリア・レースオフィサー認定講習会試験を実施する。
- 3．エリア・レースオフィサー等有資格者のためのレース運営セミナーを開催する。
- 4．外洋艇レースオフィサー認定講習会を外洋統括委員会と共同で実施する。
- 5．レースオフィサー・トレーニングキットを完成する。(CRO、NRO、およびARO)
- 6．競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制を確立する。
- 7．ヤードスティックナンバー(2004年版)の発表する。
- 8．チームレースの普及、支援活動を行う。
- 9．管理水面における安全対策及び危機管理マニュアル等の充実をはかる。
- 10．記録、成績表作成作業の効率化及び近代化を検討する。
- 11．計測制度等についての調査、研究を行う。

#### **レースオフィサー委員会 (委員長：黒川重男、副：市原恭夫、戸張房子、長塚奉司)**

- 1．レースオフィサー資格制度を維持し、管理する。  
(資格更新等の検討、レースアドバイザー制度の確立を含む。)
- 2．競技大会へのROの起用システムと支援体制を確立する。
- 3．認定講習会、試験を実施する。
- 4．外洋艇レースオフィサー認定制度を外洋事業本部と共同で管理する。
- 5．レース運営関連セミナーを実施する。
- 6．ISAF国際ナショナル・レースオフィサーに関する情報の管理を行う。
- 7．レースオフィサー・トレーニングキットの作成する。

#### **チームレース委員会 (委員長：末木創造、副：尾崎俊章)**

- 1．レース運営全般の調査、研究を行う。

2. チームレースの指導育成を行い、普及をはかる。
3. 担当レースオフィサーを育成する。
4. 全日本大会・帆走指示書ガイドを作成する。

**マッチレース委員会** (委員長：一木正治、)

1. レース運営全般の調査、研究、普及を行う。
2. 担当レースオフィサーの育成を行う。
3. 全日本大会・帆走指示書のマニュアルを作成する。
4. JSAF と当該協会等の連絡、調整を行う。

**計測委員会** (委員長：福田義一、副：恒川信好)

1. セーリング装備規則 (ERS) 講習会の開催し、普及をはかり、大会開催時における計測の規則徹底をはかる。
2. 計測員名簿を作成し、管理する。
3. 大会計測員資格認定制度を確立する。

**レースマネージメント委員会** (委員長：大原博実、副：長塚奉司)

1. 管理水面における安全対策、および危機管理マニュアル等を研究し、充実をはかる。
2. 保険の調査、研究を行う。
3. 主催者責任問題等についての調査、研究を行う。
4. 実施要項、帆走指示書の研究を行う。
5. 記録作業の効率化と近代化をはかる。
6. 汎用性のある成績表作成ソフトを充実し、管理、運用を行う。
7. 各クラスルール (連盟規程を含む) 等の収集整理をし、研究する。
8. 大会運営マニュアルを作成する。
9. 管理水面におけるレース運営の調査、研究を行う。
10. レース運営に関する国内、国外文献の収集整理を行う。
11. ヤードスティックナンバーの調査、研究、普及を行う。
12. 加盟団体、特別加盟団体の実態調査を行う。
13. 大会セレモニーの調査、研究を行う。

**競技力向上委員会** (委員長：山田敏雄、副委員長：後述)

JSAF ゴールドプランに基づき、中長期一貫指導体制確立のための諸事業を継続して推進する。

事業実施に当たってはアテネ特別委員会、医事・科学委員会、国際委員会を中心として JSAF 関連各委員会および、学連、高体連等の各階層別連盟、各都道府県連盟、各艇種別協会等

と密接な連携を保ち、ジュニア・ユースの育成強化および指導者養成プログラムの確立を二本柱として以下の事業に取り組む。

なお、委員会には以下の5グループ（各グループ責任者は委員会副委員長）と3プロジェクトチームを設置、業務分担の明確化と効率運営を目指す。

【グループ】

グループ名	責任者（委員会副委員長）
1.ジュニア・ユース強化コーチ	松山 和興
2.総括 G	今井 英雄
3.指導者養成 G	斎藤 威
4.ジュニア・ユース発掘・育成 G	青山 義弘
5.技術 G	菊池 誠

【プロジェクトチーム】

プロジェクト名
1.ゴールドプラン推進 P
2.指導者マニュアル作成 P
3.海外調査 P

平成16年度事業計画

1.ジュニア・ユース競技力向上事業

(1)海外派遣

ア.第3回世界大学選手権派遣

2004年7月2日～9日 トルコ

イ.2004年度ワールドユース選手権派遣

2004年7月8日～17日 ポーランド

ウ.セールメルボルン派遣

2004年12月30日～2005年1月17日 オーストラリア・メルボルン

(2)国内強化

ア.2004年ワールドユース派遣候補選手強化合宿兼代表最終選考

2004年5月1日～5日 佐賀県唐津

イ.2004年度ユースナショナルチーム認定

2004年10月開催 JOC ジュニアオリンピックカップおよび以降の指定したレースおよび艇種別協会の推薦により決定

ウ.同ナショナルチーム強化合宿

2005年3月15日～21日 東日本、西日本でそれぞれ開催（場所未定）

エ.海外ユースコーチ招聘

強化合宿時に招聘

(3)大会およびクリニックの開催

ア．JOC ジュニアオリンピックカップ（JSAF ユースチャンピオンシップ）

2003年9月18日～20日 神奈川県江ノ島

イ．大学生対象のトレーニングクリニック

2005年2月

470協会主催のクリニックに協賛

(4) その他

ア．ジュニア・ユース有望選手発掘

インターハイ、ジュニアオリンピックカップおよびOP全日本選手権大会時に将来性を有する有望選手の発掘を行う。

2．国際ナショナルカテゴリーの導入

世界の基準に合致した年齢別カテゴリー（Under15、Under19、Over19）の導入とトレーニングボート（艇）の多様化

3．指導者マニュアルの完成と指導体制の確立

(1) 指導者マニュアルの完成

2002年度作成に着手した指導者マニュアルの2004年4月完成と啓発活動

(2) 地域指導者講習会の実施

2004年度JSAF主要競技会等開催時（インターハイ、国体、オリンピックウィーク、OP全日本、全日本インカおよび全国普及安全会議）に各指導者に対し上記指導者マニュアルに基づいた一貫指導システム講習会を開催する。

4．オリンピックウィークの開催

ジュニアからトップアスリートまでが一堂に会するJSAF主催の日本最大、最高のインターナショナルレガッタを目標に競技力向上委員会が責任を持って開催する。

5．JOC強化拠点およびJSAF強化センターの認定

認定条件を明確にし、全国に公示の上、2004年アテネオリンピック修了後に認定する。

6．医事・科学委員会と連携した医科学サポートの実施

(1) 身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施する。

ア．医科学サポート

イ．フィットネスサポート

ウ．トレーニングサポート

エ．栄養サポート

(2) アンチドーピング活動

有望選手発掘事業および地域指導者講習会時にアンチドーピング啓発活動を実施す



る。

#### **指導者委員会 （委員長：柵橋善克）**

1. バッジテストを実施する。
  - (1) バッチテストの普及、実施指導を行う。
2. 指導員の育成に関する次の事業を行う。
  - (1) 公認指導員養成講習会の開催及び開催指導
  - (2) 全国安全指導者会議の開催
  - (3) 公認指導員の新規登録、更新登録
  - (4) 教育機関における公認指導員の養成、認定
  - (5) 一貫指導システムにおける指導者の養成、認定
  - (6) アシスタント指導員の登録
  - (7) 各県連、団体におけるヨット教室の公認
3. 以下の検討を行う
  - (1) バッチテストに関して、学科問題、実技検定コース、検定要領、認定・登録システムなど現状の分析を行い、将来のありかたについて検討する。
  - (2) 現指導者制度のさらなる活用法と各対象群別指導者制度の検討を行う。
  - (3) 指導者テキストなど各種教材の充実を検討する。

#### **レディース委員会 （委員長：倭千鶴子）**

平成 13 年度よりいくつかの目標を定め、その実現に向け努力した結果により「体験レース」及び「チャイルドルーム」の設置等、2つの項目はおおむね目的達成されたのではないかと考えられるが、今後は継続してこの事業を行い、また女性の立場で考えられるアイデアを提案し、内容の充実を図る。

1. 「体験レース」を開催し、セーリングの体験を希望している一般の方々に多く参加を呼びかける手段として、前年度と同様に新聞、雑誌、ラジオ等のメディアによる広報を幅広く行い、セーリング人口増加に貢献する。
  - (1) 時期平成 16 年 7 月初旬予定
  - (2) 講師 24 名
  - (3) スタッフ 10 名
  - (4) 参加者 100 名
  - (5) 使用艇クルーザー
2. 「チャイルドルーム」の設置に関しては、過去 2 年間は国民体育大会だけに目標をおいていたが、本年度は各地のヨットクラブや艇種別レース、県連レース、ファミリーレース等の分野を広げ、普及指導にあたる。
  - (1) 国体派遣委員 2 名

(2) 保育士数名

3. 対外的活動として、トータルオリンピックレディーズ会や JOC「女性スポーツサミット 2004」や JOC との共催による 2006 年熊本市において開催される「第 4 回世界女性スポーツ会議」に委員会より委員を派遣し、女性スポーツの向上及び JSAF における女性セーラー・女性役員の普及増強に努める。
4. 国際委員会との連携により、ISAF ウィメンズコミティのより早い情報を収集し、アジアにおける女性セーラー及び役員の普及指導を行う。

**医事科学委員会 (委員長：上原一之)**

1. アンチドーピングに関する事項  
ドーピング検査にドーピングコントロールオフィサー (DCO) を派遣する。  
JADA 認定 DCO の取得をはかる。  
(現在 DCO 8 名、4 名取得中、目標 15 名)  
アンチドーピング講習会へ講師を派遣する。
2. 競技会における救護に関する事項  
医師を派遣する。
3. 安全普及活動に関する事項  
講習会へ講師を派遣する。
4. 海外派遣選手に対する医学的指導、医師帯同に関する事項  
個別相談の受け付けを行う。
5. 公認スポーツドクター、公認トレーナーに関する事項  
体協講習会へスポーツドクター、トレーナーを派遣する。
6. オリンピック強化および競技力向上のため関係委員会と共同で事業を実施する  
(1) 身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施する。  
ア. 医科学サポート  
イ. フィットネスサポート  
ウ. トレーニングサポート  
エ. 栄養サポート  
(2) アンチドーピング活動  
有望選手発掘事業および地域指導者講習会時にアンチドーピング啓発活動を実施する。

**特別委員会**

**アテネオリンピック委員会 (委員長：松田健次郎、副：小松一憲)**

2002 年・2003 年と 2 年にわたり、アテネオリンピック国別出場枠獲得にチャレンジしてきた結果、特別委員会の掲げた目標をクリアし、国別出場枠を獲得できた種目は全 7 種

目中、470 級男子・女子のみで、国別出場枠を獲得した他の 3 種目については特別委員会の掲げた目標をクリアできていない。さらに残る 2 種目に於いては国別出場枠すら獲得できていない現状である。

「アテネの海に日の丸」という大目標からすると、全体的にまだまだといわざるをえない。

残された時間を有効に使い、トレーニングする事によって、いかに目標に近づけてゆくことができるかは、今後の各候補選手の努力に期待し、本番に最高のコンディションで臨めるように取り組んでゆく。

オリンピックイヤーである本年は目標の達成を強く意識し、関係団体並びに各委員会と連携し次の事業に取り組む。

#### 1. JOC 委託事業

- (1) 470 級世界選手権(5月・・・男子・女子：アテネオリンピック日本代表選考) 於クロアチア・ザダー
- (2) 49er 級世界選手権(4月・・・男子：アテネオリンピック国別出場枠獲得及び日本代表選考)於ギリシャ・アテネ
- (3) 海外強化合宿(7月・・・アテネの条件に近いイタリアを予定)
- (4) ヨーロッパ級<イエールウィーク>(4月・・・女子：アテネオリンピック国別出場枠獲得及び日本代表選考)於フランス・イエール

#### 2. スポーツ振興基金助成事業

- (1) ミストラル級世界選手権(4月・・・男子・女子：アテネオリンピック日本代表選考) 於トルコ・チェスメ
- (2) レーザー級世界選手権(5月・・・男子：アテネオリンピック日本代表選考) 於トルコ・ビデス

#### 3. 自主事業

- (1) アテネオリンピックサポート役員を派遣する。
- (2) 国内強化活動事業
- (3) 海外強化活動事業
- (4) 日本代表選考役員を派遣する。

#### 4. 海外派遣事業(上記委託事業・助成事業等に於ける事業対象外コーチ・役員、対象外費用を含む)

- (1) 470 級 4 名・49er 級 1 名・ヨーロッパ級 1 名・ミストラル級 3 名・レーザー級 1 名 計 10 名
- (2) 海外レースエントリー
- (3) その他海外遠征支援事業「コーチボート・レンタカー借用他」

#### 5. 管理関係業務

- (1) 強化会議を開催する。

#### アメリカズカップ委員会 (委員長：山崎達光)

2007 年(次回)スペイン大会への各国の状況を見守ると同時に、日本からの挑戦の可能性を探る。

#### 国体委員会 (委員長：昇 隆夫)

1. 第59回国民体育大会埼玉国体セーリング競技の準備を推進し、競技会場の渡良瀬遊水池における競技方法及び大会運営方法について検討を進め同大会を開催する。
2. 第60回国民体育大会岡山国体セーリング競技の大会開催の準備を推進する。
3. 兵庫、秋田、大分、新潟等の国体開催予定地の準備を支援する。
4. 中央競技団体として国体開催予定地の視察及び指導・助言を行う。
5. 国体少年男女の種目にセーリングスピリッツ級の導入について（財）日本体育協会と協議を進める。（平成18年兵庫国体採用）
6. 国体艇種の大会開催について支援をする。
7. 国民体育大会セーリング競技研修会を開催する。
8. セーリングスピリッツ協会の普及活動を支援する。
9. 国体ウィンドサーフィン級の登録及び管理を行う。
10. 各都道府県連盟に国体参加資格規定の周知を行う。
11. 国体及びリハーサル大会の簡素化を進めるために競技方法・施設規模・競技役員等について検討を行う。

#### **次世代プロジェクト推進（委員長：小田泰義、副：高橋順一）**

次世代へ向けて日本セーリング連盟の長期構想を展望する。今後の各委員会の動向で、方針を考える。

#### **財務委員会（委員長：石橋國雄、副：岩田行史）**

健全な財政確保を目的とする。

1. 各方面からの協力者を開拓する

#### **戦略広報担当（担当 青山 篤）**

新聞、テレビなどの報道機関に対し連盟活動の特に重要な部を戦略的に表・裏から報道し一般的にも、また報道機関にもなじみの薄いセーリングスポーツを宣伝、啓発する。特に、開催年度であるオリンピックまた来年度の愛知万博における広報に重点を置く。

#### **環境問題担当（担当 ）**

国際的にも大きな問題として関心の高い、進行する海の破壊に対し、連盟として全力で取り組んでいくための担当を置く。連盟の主催するセーリング競技を通じて、また連盟に加盟する団体と協力し、連盟自ら、破壊されつつある海を救うための具体的行動を起こす。

#### **会長特命チーム（特命チーム 委員長：秋山雄治、副：児玉萬平）**

#### **IT対策 特命チーム（委員長：前田彰一、副：鈴木保夫）**

1. メンバー登録、メンバーカードのプロセスと処理方法について旧N系、J系の方式を統合し、電子化、データベース化を至急に検討し事務手続きの効率化を達成する。

同時に銀行振り込みもしくはクレジットカードによる自動引き落としを導入する。

この事業達成には、総務委員会、会計委員会、事業開発委員会、関係組織との協力が必須。メンバー登録を連盟事務とするかアウトソーシングにするか競合見積もりも含め検討する。

- (1) メンバーカード、メンバー登録ナンバーの毎年発効を廃止し、退会するまで有効とする。特にこの場合の4年会員(学生)の取り扱いを検討する。
- (2) メンバーカードのクレジットカード提携を検討する。
- (3) ホームページからメンバーの登録、会費支払い確認が出来るシステムを導入する。

#### **関係組織協力 特命チーム (委員長：大庭秀夫、副：児玉萬平)**

基本的に各団体と連絡を密にとり、JSAFとの壁を取り除く事を念頭におき、事業を行う。特に、地方の県連や中央に事務局がない艇種別協会、クラブなどに対しては、機会があれば出向いて行き、関係委員会と協力の上、話し合いをし、相互の意志の疎通をしてゆく。

1. 加盟団体、特別加盟団体への会費の収支について関係組織との話し合いを行う。
2. 会員増強策を検討する。
3. 高体連、ウインドサーフィン協会、及び今後関係しうる団体との連絡を密にする。
4. ゴールドプランの理解の周知をはかる。

#### **会員増強 特命チーム (委員長：伊藤宏、副：野口隆司)**

1. 加盟団体の普及活動の実態調査

会員増強のためには底辺の拡大が必要である。このための普及活動は、加盟団体にとっても重要な事業の一つと考えられる。今回は、各加盟団体がどのような活動を行っているかその実態調査を行い、今後の活動計画を立案する。

2. B&G財団との提携

B&G財団では、かねてよりセーリングスポーツを通して青少年の育成に努めているが、普及活動の一環として、この活動との連携による底辺拡大の方法を検討する。

3. パンフレットの配布

メンバー登録のパンフレットをマリンショップやマリーナなどに配布し、一般セーラーへの広報を行う。

4. その他

競技会参加資格の見直し等、関係委員会と会員増強策を検討・実施する。

**普及・ディスエイブル 特命チーム** （委員長：水谷益彦、副：稲葉文則、柵橋善克、清水昭）

現下の厳しい財政状況を勘案し、助成金事業を中心に普及事業を行う。

- 1．日本財団助成事業を全国加盟団体に委託することによりセーリングの普及を図る。
  - (1) ファミリーレース 9箇所  
ファミリーレースを各地で開催することにより、普及を図る。
  - (2) ジュニアセーリング体験 4箇所  
ジュニアを対象にセーリング体験教室を開催し、普及を図る。
  - (3) レディスセーリング体験 1箇所  
女性を対象にセーリング体験教室を開催し、普及を図る。
  - (4) 障害者セーリング体験 1箇所  
障害を持つ人、その支援者を対象にセーリング体験教室を開催し、普及を図る。
  - (5) 教職員指導者セーリング講習会 3箇所  
若年層にセーリングを普及するため、指導者を養成する講習会を行う。
  - (6) 安全指導者講習会 1箇所  
全国のセーリングの指導者を対象に安全をはじめとする講習会を行う。
- 2．障害者ヨットの普及組織化を図る。
  - (1) 日本財団助成事業に新たに障害者セーリング体験教室を加え普及を図る。
  - (2) 各地のセイラビリティ組織の交流行い、ネット化を図る。
- 3．クルーザーグループを中心に平成15年度当初計画事業を行う。
  - (1) 海の広場でのブルーウォーターヨット
  - (2) 全国どこでも小さな海道
  - (3) 里の海での冒険の進め
- 4．「愛、地球博パートナーシップ事業・国際セーリングシリーズ」の前年として、事業実施に向けての、普及、PRを図る計画を樹立する。

**ディスエイブルセーリング小委員会** （委員長：清水昭）

ディスエイブルセーリングのための関連協会との共同事業を行う。

**高齢者セーリング 小委員会** （委員長：柵橋善克）

特に高齢者を対象としたセーリング活動を支援し海事思想の普及を図ると共に、連盟への支援活動に参加してもらう。

**外洋事業**

**外洋統括委員会** （委員長：富田稔、副：小田泰義、吉田豊）

### 外洋（オフショア）の定義

I S A F 規程により I S A F 規程カテゴリー5 以上の安全装備を必要とする艇。

#### 外洋レースマネジメント委員会 （委員長：平賀 威 副：児玉萬平、横田光夫）

- 1 . 外洋艇のためのテキスト、レースガイド、IMO-ORC 安全ガイド、海事関係法律等の作成する。
- 2 . 安全規程「SR」のレース前チェックシステムの規程を整備し、主催者への指導をはかる。
- 3 . レース主催者と連盟の責任と対応についての基本を指導する。  
事故対応に関する保険約定の理解と研究を行う。
- 4 . 小型船舶免許制度に連動したレース乗船経歴の記録を整備し、管理を行う。
- 5 . 外洋競技催者講習会の実施

#### 外洋安全委員会 （委員長：浪川宏、副：河内道夫）

- 1 . 安全規定の適用見直しと検査基準の再構築、安全検査員資格制度を再構築する。
- 2 . 一般ユーザーに対する JSAF「SR」の講習会を再開する。
- 3 2003年4月から全世界で適用されたオフショア安全トレーニング資格制度を始める。
- 4 . 危機管理マニュアル、救急法説明書、事故時の対応マニュアルを改定整備する。
- 5 . 船舶安全装備ならびに船舶スタビリティ規格の調査研究を行う。
- 6 . 国土交通省と連携し、最大搭載人数、旅客定員の定義の検討する。
- 7 . ライフジャケットならびにセーフティーハーネスの着用指導を行う。
- 8 . 国土交通省プレジャーボート携帯電話安全通信について、連盟仕様書の提出をする。

#### 外洋通信委員会 （委員長：鈴木保夫、副：河内道夫、池内貞二）

- 1 . 法規委員会と連携し特に国際VHF無線に対する緩和の要請する。（開局時手続きと機器類）
- 2 . 将来構想であるAISシステムの構想作成に向けてI S A Fと連携し、概案を作成する。
- 3 . 既存VHF無線局設備の適正な維持及び運営を行い、県連と連携しディンギーレースへの使用、機器貸し出しを行う。
- 4 . VHF通信利用の普及促進利用の啓発 講習会を開催する。
- 5 . 外洋安全委員会と連携し、国土交通省プレジャーボート携帯電話安全通信の普及計画を策定する。

#### ハンディキャップ・計測委員会 （委員長：小田泰義、副：富田稔、柏元）

- 1 . I M S、O R C C 講習会の開催

2. レーティングオフィスの整備、再構築
3. I S A Fの方針に従い、世界の簡易外洋艇レーティングの研究開発と啓発  
特にR O R CのI R Cおよび、新スカンディナビアレーティングの検討、情報開示  
国内P H R Fハンディキャップ レースの情報収集、主催団体との関係強化をはか  
る。
4. O R Cミーティングへの計測委員会委員を派遣する。
5. グランプリレース ルールの日本国内での導入を研究、検討する。

#### **外洋法規委員会 （委員長：富田稔、副：渡辺康夫）**

1. 全国外洋艇体験乗船の規則の整備を行う。
2. 日本小型船舶検査機構（JCI）関連項目  
定期的な会議（小型船舶関係懇談会、年数回）を行う。  
小型船舶検査に関し世界の標準と日本の特殊性について徹底的に議論すると同時に相  
互理解を高める。
3. 国土交通省のプレジャーボート安全利用情報システムの構築に答申する
4. 小型船舶備品の規制撤廃と、製品供給に関するキャンペーン  
(1) D S C付き国際V H F無線機の認定とオペレータ免許制度の根本的改革  
(2) 将来、小型船舶に適用されるA I S（小型船舶自動認識システム）の日本固有の  
普及構想  
(3) S O L A Sレーダー仕様の変更に対応する小型船舶用レーダートランスポンダー  
(4) I S O , I S A F仕様変更に対応する小型ライフラフトの国外製品認定  
(5) 小型船舶用ライフラフト搭載パーソナルE P I R B  
(6) 小型船舶用の発煙信号、パラシュートフレアー  
(7) M O B（転落）救出用ライフスリング
5. 国際海洋汚染防止条約(MARPOL Prevention of Marine Pollution)の規制が世界では高  
まっている、日本セーリング連盟としての海洋汚染、環境対策への対応と啓発
6. 係留保管場所確保への対応
7. F R P 廃船リサイクルユース、廃船処理に向けた対応

#### **技術委員会 （委員長：林賢之輔）**

1. 外洋法規委員会に協力し、安全備品規制緩和に向けて技術的調査、研究。
2. ISO・JCI 関連の問題に対して研究、特に艇の復元性に対する研究  
定員に対する緊急調査、特に艇の復元性に関する公開情報の整備、公表（R Y A ホ  
ームページを参考にユーザー情報についての公開情報の整備）
3. 世界の動向であるキャンキングキール、ウオーターバラストの安全性、標準化をO R  
Cと共同研究。